

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22560653

研究課題名(和文) 戦災を受けた歴史的建造物の復旧過程が文化財保護制度に与えた影響に関する研究

研究課題名(英文) A study on the influence of the process of post-war reconstruction of historic towns and buildings on the protection of cultural properties

研究代表者

秋枝 ユミイザベル (Akieda, Yumi Isabelle)

東京藝術大学・大学院美術研究科・講師

研究者番号：80467000

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：現地調査研究(韓国、イギリス、ベルギー)の調査より各国各事例の特徴が明らかになった。特にヨーロッパの調査は該当分野と時代における各国間の相互影響と関係分野間の相互作用の重要性を浮き彫りにした。第一次世界大戦後のベルギー、そして第二次世界大戦後のイギリス、それぞれにおける歴史的建造物と都市の復興を理解するためには、当時活発な議論が進められていた建築と都市計画の理論に影響され、文化遺産の保護に対する思想の展開を分析することが欠かせないことが判明した。また韓国における戦災復興の研究は文化財保護政策の視点からだけでなく一般的な都市計画の視点から調査研究を進めてゆく必要があることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：On site and documentation research focused on cases in Korea, England and Belgium. Surveys brought about specific characteristics for each country and each case. However, survey in European countries showed there have been strong interaction and influences between countries and between fields of discipline. The keys to understanding the reconstruction of historic towns and heritage buildings in Belgium after World War 1 and in England after World War 2, are to be considered in the analysis of influences between the theories and the movements that were driving the fields of architecture and urbanism at those times, as well as emerging ideas on heritage protection. In Korea also, survey brought about the conclusion that research on post-war reconstruction needs to be conducted not merely from the viewpoint of cultural properties protection, but in conjunction with more general research on urban planning.

研究分野：建築史・意匠

科研費の分科・細目：基盤研究(C)

キーワード：文化財保護 保存再生・復旧 ベルギー・イギリス・韓国・日本 戦災 歴史的建造物・都市

## 1. 研究開始当初の背景

文化財建造物の価値と復原・復元についての研究は、「残す」過程の様々な原因が作用するため、抽象的に捉える傾向にある。国内におけるこの研究の蓄積が乏しいことも、この理由と思われる。その「価値」というものに対する扱いが、具体的にかつ顕著に現れるのが、戦災という大規模な、かつ短期間による破壊の後の対応、処置である。

戦争による被害は、人命的、経済的莫大な損失だけではなく社会的文化的疲弊をもたらすことは言うまでもない。その一つの原因として被災国の文化遺産の破壊、または喪失をあげることができよう。また、攻撃する側から見たとき、文化遺産は重要な標的として捉えられる場合が多いため、文化遺産を核として地域の被害の極大化を助長する。これは、戦争と自然災害による文化遺産の被害とその後の対処の性質が異なってくる原因ともいえよう。

この戦災後の文化財・歴史的建造物の扱いについて考察を行うことで、「文化財の表している価値」を具体的に捉えることができる。文化財・歴史的建造物の価値についての研究の一部として、具体的な側面からアプローチしたい。

そこで本研究では、戦争によって被害を受けた歴史的建造物の復旧を、文化財建造物に対して「どのような価値を、だれが、どのように」認識しているかが顕著にあらわれる契機として捉え、20世紀前半におけるその過程を研究しようと試みた。

## 2. 研究の目的

本研究は、戦災から復旧された国の歴史的建造物を対象に、文献及び現地調査に基づいて、戦災直後の応急措置や修復プロセスを文化財保護の観点から考察・把握し、復旧を動機付けた文化財保護の原則・文化財の価値を認識した上で、戦争により被害を受けた歴史的建造物の復旧過程が被災国の文化財保護制度の成立または変遷に与えた影響を明らかにすることを目的とする。

事例研究対象国にベルギー(第1次世界大戦)、イギリス・日本(第2次世界大戦)、韓国(朝鮮戦争)の事例をあげることを選択することによって、20世紀前半期を時系列的に網羅し、西欧とアジアの状況を比較考察することができる。

本研究の目的は、研究対象地域における文化財建造物の復旧過程について調査を行い、その特性及びその後の保護制度の展開を比較し、各国の共通点と相違点を明らかにすることである。

そのために、戦争による被害を实际受けた文化財建造物の復旧事例分析と並行して、戦

前・戦後における文化財保護制度について考察を行い、これらの相互の関係・影響について解明することを目的とした。

## 3. 研究の方法

研究方法としては、主に以下を中心に調査を行った。

1. 基本資料収集：既存文献、データベースなどによる基本情報収集。

2. 現地調査：被災前後の史料収集、復旧当時の行政文書、図面・写真資料収集。文化財管理当局へのヒアリング調査。

3. 分析：復旧事例・保護制度の特性分析。

## 4. 研究成果

### 概要

現地調査研究(韓国、イギリス、ベルギー)の調査より各国各事例の特徴が明らかになった。特にヨーロッパの調査は該当分野と時代における各国間の相互影響と関係分野間の相互作用の重要性を浮き彫りにした。第一次世界大戦後のベルギー、そして第二次世界大戦後のイギリス、それぞれにおける歴史的建造物と都市の復興を理解するためには、当時活発な議論が進められていた建築と都市計画の理論に影響され、文化遺産の保護に対する思想の展開を分析することが欠かせないことが判明した。また韓国における戦災復興の研究は文化財保護政策の視点からだけでなく一般的な都市計画の視点から調査研究を進めてゆく必要があることが明らかになった。

On site and documentation research focused on cases in Korea, England and Belgium. Surveys brought about specific characteristics for each country and each case. However, survey in European countries showed there have been strong interaction and influences between countries and between fields of discipline. The keys to understanding the reconstruction of historic towns and heritage buildings in Belgium after World War 1 and in England after World War 2, are to be considered in the analysis of influences between the theories and the movements that were driving the fields of architecture and urbanism at those times, as well as emerging ideas on heritage protection. In Korea also, survey brought about the conclusion that research on post-war reconstruction needs to be conducted not merely from the viewpoint of cultural properties protection, but in conjunction with more general research on

urban planning.

====

研究の範囲は、20世紀前半という時代的枠組みと、西欧と極東という文化的枠組みを設定し、調査対象地においては、具体的な文化財建造物の戦争による被害・復興事例から、歴史的建造物の価値とその扱いについて調べることとした。

戦災後の復旧は、保護制度にも影響を及ぼしているとの仮説のもとで、異なる時代と場所を対象として調査を行った。4つの異なる時間と空間における事例調査によって、保護制度の変容と戦災後の文化財建造物復旧との間にある相互作用を明らかにすることができる。調査対象地は、ベルギー、イギリス、日本、韓国とした。これらはいずれも、戦争による大きな被害を受けた後、歴史的建造物の大規模な復旧が行われた経験を持つ。戦争による被害の種類も制度の変遷も異なる事例において、各々の制度への影響の度合いも異なることが認められた。

現地調査においては調査項目として、以下のものを設定した。

- a. 戦災による被害内容（種類及び規模）の把握
- b. 文化財建造物の復旧プロセス
- c. 文化財建造物復旧の主体（自国、他国の援助）
- d. 修復技術者の有無・経歴
- e. 戦災前後の文化財保護制度・体制の比較

現地調査の実施については、研究初年度に韓国調査を行い、次年度にイギリスとベルギーを含むヨーロッパ調査を実施した。研究初年度には研究分担者の予期できなかった辞退があり、日本国内の現地調査を実施できずに、当初予定していた調査内容は完了できなかったが、イギリス、ベルギー及び韓国における調査の内容をもって、一定の知見を得ることができた。

#### 韓国調査

韓国を対象とした調査については、特に被害が大きかったチリ山周辺の寺院群において、文化財保護法（1962年）制定以前、保護制度の成立前に緊急復旧工事が先行したことに着目し、朝鮮戦争による被害及び復旧に関する調査を行なうことが目的だった。政府記録保存所、文化財庁、国立文化財研究所所蔵の被害報告資料、復旧に伴う審議会会議録、写真・図面資料を収集することを中心に予定していた。

現地調査においては、ソウルを中心とした戦災復興調査を行った。

ソウル景福宮の正門光化門は、日本統治時代に取壊しの危機にあい、反対運動で移築され

たが、朝鮮戦争時に焼失、その後再建されていたが、昨年朝鮮総督府を撤去し、元の位置に復元された。政治状況に翻弄され、何度も復興されてきた光化門の変遷過程から、韓国における古遺跡、文化財保護の理念の変化が読み取れた。また、韓国文化財庁および韓国国家記録院で行った資料探索の結果、朝鮮戦争時の資料は、日本統治時代以上に資料が散逸している状態であることが判明した。

韓国における戦災復興についての研究は、文化財保護政策の視点からだけでなく、一般的な都市計画の視点から調査研究を進めてゆく必要があることが明らかになった。

ヨーロッパ イギリス及びベルギー調査  
現地調査としてイギリスおよびベルギーにおける被災前後の史料収集、復旧当時の行政文書、図面・写真資料収集など、現地調査を行った。

市街地の視察はロンドン、ルーヴァン、イーブルにおいて第一次世界大戦・第二次世界大戦後に復興された市街地区の歴史的建造物・文化財建造物や町並みを中心に行った。

資料収集においては、パリ、ロンドン、ブリュッセル、ルーヴァン、イーブル、リエージュ各都市に所在する文化財保護関係機関の図書室・アーカイブや国立・市立のアーカイブ機関を訪ね、ロンドン・ルーヴァン・イーブルの戦災後の復興と都市計画に関する出版物や市街地図を収集した。

イギリス ロンドン、コヴェントリー  
イギリスではロンドン及びコヴェントリーを中心に、第二次大戦後に復興された教会および市街地区を視察し、RIBAの図書室などで戦後の復興と都市計画についての史料調査を行った。詳細は以下の通り。

ロンドン：市内の再建市街地セントポール大聖堂を中心とするザ・シティ地区、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館内のアーカイブ室及びRIBA 図面閲覧室、RIBA 本部内図書アーカイブ室。

コヴェントリー：大聖堂、大聖堂と市庁舎を中心とした復興市街地区。

ベルギー ブリュッセル、ルーヴァン、イーブル、リエージュ  
ベルギーでは上記の各都市（ブリュッセル、ルーヴァン、イーブル、リエージュ）などを中心に、各地の歴史的市街地区を視察し、王

立アーカイブ、王立図書館をはじめ、それぞれの都市のアーカイブ、図書館など関係資料を所蔵する機関において、史料調査を行った。詳細は以下の通り。

ブリュッセル：フラマン政府不動産文化遺産保護局、王立古文書館、王立図書館〔書籍部〕  
王立図書館〔地図部〕

ルーヴァン：歴史的市街地区（市庁舎、セントピータース聖堂、旧市場広場、大学会館、大学図書館などを中心に復興された歴史的市街地区）、ルーヴァン大学図書館〔中央図書館、アーレンベルク図書館〕、ルーヴァン市立アーカイブ室。

イープル：歴史的市街地区（衣料会館、セントマルテン聖堂、市場広場などを中心に復興された歴史的市街地区）、イン・フランドルス・フィールズ博物館、同博物館ドキュメンテーションセンター、イープル市立アーカイブ。

リエージュ：ワロン政府不動産文化遺産保護局図書アーカイブ室。

#### 日本国内 沖縄調査

日本の事例としては、第2次世界大戦において地上戦が行われ文化財が大きな被害を被った沖縄・那覇市の事例とした。戦前の那覇にあった指定文化財建造物は、崇元寺、円覚寺の石造物一部を除いて多大な被害を受けている。琉球政府時代（1945-1972年）文化財保護法が独自に制定され、その経緯を含めた琉球政府時代における文化財建造物の復旧工事と文化財指定過程が興味深い。調査対象として沖縄公文書館、沖縄県教育庁文化課、沖縄県平和祈念資料館を中心に、各機関所蔵の資料収集及び関係者のヒアリングを予定していたが、現地調査を行うことができず、調査は資料収集に限られた。

#### 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 1件)

穎原澄子「近現代の英国における教会堂 - 文化財行政での扱いを中心に」、九州大学大学院芸術工学研究院 環境デザイン部門 建築史学・文化財学講座 主催 ミニシンポジウム「環境と宗教」、2014年2月15日、九州大学芸術工学部

#### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

秋枝 ユミイザベル (AKIEDA Yumi Isabelle)  
東京芸術大学・大学院美術研究科・講師  
研究者番号：80467000

#### (2) 研究分担者

穎原 澄子 (EBARA Sumiko)  
千葉大学・工学研究科・准教授  
研究者番号：40468814

金 銀眞 (KIM Eun-jin)  
東京大学・先端科学技術研究センター・研究員  
研究者番号：10706948